

人の価値は得たものではなく 与えたもので決まる

(ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタインの言葉から)

2025年のFIFA U-20ワールドカップ(開催国:チリ)に出場した日本U-20代表が、準々決勝で敗退した後、ロッカールームを掃除し、ホスト国チリとその文化に対して「Thank you very much, Chile! We are very proud of your culture.」というメッセージを残していたという記事が載っていました。

勝敗だけでなく、相手・大会・文化をリスペクトする振る舞いとして国内外で取り上げられています。この素晴らしいスポーツマンシップの姿から多くのことを学ばせてもらうことができます。

中学生も大きなものを与えています。立ち止まってあいさつしてくれる姿に“すごい”と思ったり、部活動に一生懸命取り組む姿に心打たれたり、前期最終日に行われた合唱コンクールではクラスの思いが一つになった素晴らしいハーモニーには鳥肌が立ち、涙があふれてきました。

また、先週、宇城中学校駅伝競走大会が行われました。陸上部員や強化選手の人達は、約3か月間、暑い中苦しい練習を頑張り、当日は小川中のみんなの思いに応えようと素晴らしい走りをしてくれました。走っている姿は堂々としていてとても感動しました。

生徒たちの自身とやる気に満ち溢れた姿を見ることが私たちの喜びでもあります。感動をもらうたびに「教師をしていてよかった」とつくづく感じます。保護者のみなさんも同じ気持ちだと思います。後期も多くの活動があります。小さなことで構いません、「多くの人に感動を与えてほしい!」と思います。



清々しい一日のスタート



朝の登校時間に、人権・ボランティア委員会の提案で「あゆみ坂」の清掃ボランティアを始めてくれました。自分たちの学校は、自分たちの手で…。という気持ちが形になったと思います。仲間と協力して取り組むことで、学校全体が明るくなり、一日のスタートも清々しい気持ちになります。これからもみんなで継続して、きれいで心地よい学校づくりに励んでいきましょう。

